



紙ふうせんの皆さんによるパネルシアター



パネルシアターに見入る参加者の親子



いつも元気なソレイユの皆さん

05 よりそう

おじいちゃん、おばあちゃんに代わる存在になれたらー。

毎月第4金曜日。谷和原公民館谷原分館に、楽しそう

な笑い声が響く。託児ボランティア「ソレイユ」の皆さんが、月に1回開催している子育てサロン「かんがるうひろば」。このサロンでは小さい子どもを連れてママやパパたちが集い、一緒に遊びながら交流する。

取材に訪れたこの日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、15組の親子が参加し、ソレイユの皆さんと一緒に手遊びや歌を楽しんでいた。

サロンに参加するのは4回目という井川さんは、娘さんと一緒に参加。「おじいちゃん、おばあちゃんに遊んでもらえるところが魅力」と話してくれた。「ソレイユ」は託児を担うボ



託児ボランティア「ソレイユ」代表 菩提寺 宗子さん



ランティア団体で、「かんがるうひろば」のほか、きらくやまふれあいの丘すこやか福祉館の子育て支援室で「ハッピーデイズ」を開催している。このほか、赤ちゃんフェスタも主催するなど、子育てに関わるさまざまなイベントを精力的に行っている。

この日は「ソレイユ」の皆さんのほかに、ボランティアサークル「紙ふうせん」の皆さんによるパネルシアターの公演も行われた。「次は何がでてくるのかな」。パネル上に

次々と現れる動物やおもちやお菓子に子どもたちも興味津々だ。参加した親子も一緒に歌ったり、身体を動かしたりして楽しんだ。

「ソレイユ」の代表を務める菩提寺さんは次のように話す。

「サロンに参加してくれた方が、私たちを親の代わりみたいにして、ひとりで抱えている悩みを、すぐく打ち解けて話してくれる。それがとてもうれしいですね」

核家族が進む今の時代だからこそ、「ソレイユ」のような地域のじいじ、ばあば」が求められ、自然と若い世代が集まってくるのだろう。



06 ひろがる

今回の取材を通じて、さまざまな形で子育て支援に関わる人の話を聞くことができた。皆さんに共通していたのは、「ひとりで抱え込まないで」というメッセージだ。子育ては一人でするものではない。今回取り上げた、はぐはぐ教室、子育て支援室、ファミリースポーツセンター、かんがるうひろばのほかにも、さまざまな子育て支援の輪が広がっている。

子育てに正しい答えなんてない。完璧もない。誰だって迷い、悩み、もがきながら、試行錯誤の日々を過ごしている。そんな胸の内を、支援室で出会ったママと共感し合う、あるいは保育士に相談する。時には「地域のじいじ、ばあば」を頼ったりすることで、「また、がんばろう」と気持ちをリセットすることができるのではないだろうか。

地域ぐるみ、まちぐるみで子育ての輪を広げていくことが、今もそしてこれからも大切だと気付かされた。